

まことの保育

2017・5月号

第4回まことの保育指導者養成中央講座開催報告
伝灯のつどい・園児による花束贈呈一覧(第5期～第6期)
とじこみ 2017(平成29)年度「降誕会園児のつどい」ご案内



浄土真宗本願寺派 保育連盟

<http://hoiku.hongwanji.or.jp>

hoiku@hongwanji.or.jp

物にあたりはじめ、私のお腹にもパンチをしようとしたが、お腹の寸前で止めたのです。私は、ありがとうという気持ちで抱きしました。その日からT君のパニックは劇的に減り、起きてても小規模になりました。そして、私のお腹を見て「赤ちゃんが、ここにいるんですよ」と言ってくれるようになり、生命の誕生を喜んでくれました。

また、こんなこともありました。年長組の担任をさせていただいていた時にR君のお母様が病気で亡くなりました。この事実をどう子どもたちに伝えようか、悩みました。「亡くなる」ということを話した時に「ママに会えないならお弁当を作ってもらえないから私のをあげる」「一緒に遊ぶ」「寝る時ひとりなのか？」と子どもなりにいろいろと考え、理解しようとしている姿を見て、自分が恥ずかしくなったことを覚えています。

またR君が登園して来た時、本人とその他の子どもたちの様子が、以前と変わらないことに正直、驚きました。R君は、我慢をし、きつといろいろな思いがあったでしょう。そ

れなのに、抱きしめることしかできなかった自分が腹立たしく、無力さを痛感しました。大人だとR君に優しくしなければと考えたり意識的にお母さんの話をしないうところですが、子どもたちは、いつもと変わらず接していました。そんな柔軟な考え方や毎日の生活の大切さを改めて教えてくれました。

「生命の尊さ」というと偉大なテーマで難しいような気がしますが、こんなにも身近なことであり、子どもたちは、年齢や状況に応じた受け取り方をし、私が思っているより、ずっと進んでいると感じました。

「人はひとりでは生きていけない」とよく言われます。私たちは、家族、同僚、先輩後輩、師弟などの関係を通して、人と人との「つながり」を大切にしなければいけないと思っています。そして生命の誕生や死に直面し体験をすることで、さらに「つながり」が深まるのではないかと強く思います。私は少しでもこの「つながり」の大切さを子どもたちや後輩たちに伝え、これからも一歩一歩前へ進んでいきたいと思っています。

“つながり”の中で



たなかのりこ
田中典子

光臨幼稚園 教頭（東京教区）

私は、自分が卒園した幼稚園に就職をして結婚、出産を経て、あつという間に三十年が過ぎ、現在、教頭という立場で保育に携わっています。

今まで、たくさんの保護者の方々や職員、そして子どもたちと出会いました。その中で、悩み、苦しみもありましたが、かわいい子どもたちから元気をもらい、楽しく毎日を送らせていただいています。その中でいろいろな経験もさせていただき、感じたことをいくつかお話しいたします。

年中組から入園し、二年間担当をさせていただいたT君は、何か嫌なことがあるとパニック状態になり、暴れ、物を投げ、破り、時には、私に攻撃してくることもあり、私は周囲の子どもたちが怪我をしないようにすることで必死でした。T君との信頼関係を少しずつ深め、パニックも減り年長組になりました。

そんな時私の妊娠がわかり、子どもたちにも話し、みんなが赤ちゃんの誕生を楽しみにしてくれました。しかし、あることがきっかけでT君のパニックが起きてしまい、周囲の